

カビル・タジキスタン産業・新技術大臣一行の高原（一社）ロシアNIS貿易会副会長訪問

2022年11月30日（水）、EBRD主催の「中央アジア投資フォーラム」参加のため来日していたシェラリ・カビル・タジキスタン産業・新技術大臣他ご一行が、高原一郎（一社）ロシアNIS貿易会副会長を訪問されました。

タジキスタン経済の現状、有望投資分野などについて詳しいご説明がありましたので、以下に記録をお届けします。

日時：2022年11月30日（水）14:30～15:30

場所：丸紅（株）本社応接室

タジキスタン側出席者：

シェラリ・カビル 産業・新技術大臣

サディ・コディルゾダ 投資・国有資産管理委員会議長

ミルゾシャリフ・ジャロロフ 駐日タジキスタン共和国特命全権大使

日本側出席者：

高原 一郎 ROTOBO 副会長（丸紅株 取締役副会長）、他

【面談要旨】

◇冒頭挨拶

（高原副会長）

- ・ 自分は貴国を訪問したことがないのだが、タジキスタンと言えば1つ印象的なエピソードがある。先ごろ現地のマイクロファイナンス企業へ出資した日本企業へ話を聞く機会があったが、その彼がタジキスタンに投資して本当に良かったと述べていた。タジキスタンは非常に透明性が高く、親切な国で、マイクロファイナンスのパフォーマンスも大変良く、感謝しているのだと。こうした先例を広めていけるとよいと思っている。

◇タジキスタンと諸外国との経済関係

（カビル大臣）

- ・ タジキスタンの現状について少し聞いていただきたい。今回、タジキスタンは第一副首相を団長とし、様々な関係機関で構成される大きな代表団を日本に派遣している。これはタジキスタンが日本を重要視している表れである。
- ・ しかるに、日本とタジキスタンの貿易水準は大変低く、とても満足できるものではない。日本からタジキスタンへの投資額は800万ドルで、最も少ない国の一つである。
- ・ その要因には主観的なものも客観的なものも考えられるが、まず第一に言えるの

は日本がタジキスタンを大変に知らないということだ。

- ・ 今回、我々はドイツで投資フォーラムを開催した後に日本に来た。同フォーラムでは6億ドル相当の契約が結ばれた。主にタジキスタンからのメタル輸出に関するもので、我が国のメタルは欧州にとって非常に重要である。一方、タジキスタンは欧州からテクノロジーを輸入する。
- ・ 契約にはすべて、ドイツ輸出入銀行と貿易保険機構が関与している。ドイツ側からは、タジキスタンの経済改革に関する提言ももらった。
- ・ 韓国との関係もうまくいっている。タジキスタン・韓国共同大学やテクノパークなど、42件のプログラムが遂行中だ。韓国輸出入銀行が積極的に関与しており、彼らとは毎月、交渉を行っているほどである。
- ・ 中国との協力もうまくいっている。中国の開発機関や輸出入銀行と協力しており、特に輸出入銀行は非常に積極的である。タジキスタンの5大企業にはいずれも中国の資本が入っており、一緒に仕事をしているのである。
- ・ タジキスタンは一つの国に偏ることなく、多角的な協力関係の構築を望んでいる。
(ジャロロフ大使)
- ・ 特に鉱山・採掘分野はそうである。

◇タジキスタンのメタルと水力発電

(カビル大臣)

- ・ そうした文脈で日本との協力を希望している。特にグリーンエコノミーと、メタルマイニングの2つの分野で協力したい。
- ・ タジキスタンはグリーンエコノミーへの移行に重要な役割を果たす、5つのコモディティ・メタルを生産できる。第1にアンチモン。世界の総埋蔵量の52%がタジキスタンに賦存しており、精鉱を生産するだけでなく加工も行っている。アンチモンは軍事・宇宙などの産業で重要な役割を果たす。
- ・ 第2がアルミニウムで、現在、産業再編を行っているところ。タジキスタンは2週間前、世界グリーン・アルミニウム・ランキングで3位となった。タジキスタンは電力の98%を水力で賄っており、アルミニウム産業も然りである。
- ・ タジキスタンの水力発電には大きなポテンシャルがある。中央アジアの水資源の68%がタジキスタンに存在するのだが、5%しか有効利用されていない。水力発電への投資が欲しい。
- ・ 水素の生産も有望である。タジキスタンではグリーンなエネルギーで水素を生産できるのがポイントだ。オーストラリアの大企業「フォーテクス」(注:未確認)がタジキスタンで水力発電による水素生産を検討している。
- ・ タジキスタンでは今、出力3800MWのロゲン水力発電所を建設中である。2基の発電機がすでに稼働、もう1基が1年後に完成予定。ダムの子の高さは335mで世界一である。ちなみに山岳の中にあるタービン建屋はソ連時代に核戦争に備え

て作られた施設だと言われている。22,000人の労働者が建設にあたっており、そこには98人のタジク人専門家・エンジニアが含まれる。

- ・メタルの話に戻ると第3のコモディティは銅である。年産5万tの精錬工場が近く稼働する予定である。タジキスタン30%、中国70%の出資による合弁企業で世界一の米国の技術が導入される。
- ・第4のメタルは亜鉛・錫。その他の金属も豊富に生産する。金の清算も増えており、増加率は20%に上る（注：年率？）。
- ・リチウムについても将来性のある工場の建設計画中で、日本にぜひ関心をもってほしい。その他ニッケル、タングステンなど、タジキスタンにはメンデレーエフ周期表にある元素がすべてある。
- ・国内で600ある開発計画中の鉱床のうち200がレニウムである。
- ・石炭、特に無煙炭も生産できる。日本の鉄鋼業発展のためのコークスをタジキスタンから供給することができるのだ。
- ・現在、もろもろの事業でネックとなっているのは南の海に出る港がないこと。パキスタンに出られればよいのだが、まだ実現していない。
- ・コロナのパンデミックによってもタジキスタンの食品輸出には支障が出た。ロジスティクスが問題となっている。ロシアの港を利用しようとする30~40日かかるが、アフガニスタン経由でパキスタンの港までは4~5日で出られる。タジキスタンはアフガニスタンのタリバン政権を承認していないため、このルートは正式には使えないのだが、実際は既に輸送は行われている。トライアルによって、ロシア・ルートよりパキスタン・ルートの方が効果的であることがすでに分かっている。
- ・韓国のキアモーターズがタジキスタンで自動車のノックダウン製造を始める。
- ・ゴルノバダフシャンにおける道路整備が日本の支援で始まった。これを利用すれば、30分ほどで山岳地帯に至ることができる。パキスタンとトンネル建設に関する交渉を進めており、実現すればインド国境から約45kmの地点に出ることができる。南方の港湾へ至る選択肢となるため、将来のロジスティクスルートとして有望である。（注：タジキスタンはパキスタンと国境を接しておらず、意味不明。日本の支援によるゴルノバダフシャンの道路建設プロジェクトも確認できない。）

◇日本へのラブコール

（カビル大臣）

- ・ここまでのメッセージを総括すると、タジキスタンは日本が必要とするメタルを有しており、日本と協力してこれを輸出したい。合弁企業を作る、あるいはファイナンスをするなどしてくれれば、日本にメタルを供給できるのだ。
- ・EU、英国との貿易交渉では7千品目以上多対象となっており、GSPプラスによる関税優遇措置を受けることができる。2024年からEUでカーボンタックスが導入

されれば、グリーンなタジキスタンの重要性はさらに増すことになるだろう。EUのみならず、パリ協定に参加するすべての国が、その方向に向かうのだ。

- ・ 人もまた重要な資源である。タジキスタンの人口の70%が若年層で、皆、少なくとも2つの言語を話すことができる。若い働き手があり、GSPプラスの対象国で、グリーンエコノミーを推進するタジキスタンと、日本の技術力とファイナンス力が組み合わされば、両国の利益にかなうのみならず、第3国への進出も可能となるだろう。
- ・ こうしたタジキスタンの優位性は、中央アジアでタジキスタンだけに備わっており、他の国にはないものだ。例えばキルギスは水力は豊富だが、メタルがなく、生産も精錬もできない。
- ・ タジキスタンに進出するにあたり、「投資契約」を結ぶのも有効である。タジキスタン政府と投資家の間で結ばれ、議会で批准されるものである。
- ・ タジキスタンは政治的に安定しており、犯罪率は低く、労働力は安い。こうしたタジキスタン特有の優位性が、日本では知られていない。
- ・ さらに付け加えれば、ラフモン大統領が産業発展五か年計画を策定している。これに則って日本がタジキスタンにテクノロジー・パークを建設するというのもよいだろう。ロシアへの出稼ぎ労働者からの送金に依存するのではなく、この人々に国内で雇用を作りたい。また日本に原料を供給するだけでなく、日本から技術を導入したい。
- ・ こうした諸々の実現のために、ぜひタジキスタンにおいていただきたい。ビジネスミッションを組んで、タジキスタンを訪問し、自分の目で見ていただきたい。

(高原副会長)

- ・ 印象的なお話だった。聞いていて思ったのは、もっと他の企業がタジキスタンについて知らねばならないということだ。今回、大臣がおいでになったことは大変重要なきっかけとなると思う。グリーンが重要なテーマだというご指摘は確かにそのとおりで、それはROTOBO会員にとっても、日本政府にとっても当てはまる。本日いただいた情報は、ROTOBO会員や、関係機関に共有されるだろうし、すぐに行動に移さなければならないと感じている。

(カビル大臣)

- ・ タジキスタンの工業生産の増加率は27%で世界一である。(注：2022年と思われる)その前は23.5%で、このペースで伸びれば工業生産は5年で2.5倍になるということだ。
- ・ 鉱山分野も当然、これに従う。クリコンスールという銀鉱山に世界第2位の精錬コンビナートを作る計画がある。ログン発電所の建設にも機械が必要だ。これら急速に発展する分野で、タイヤの需要が非常に伸びている。
- ・ タイヤ供給について、ロシアのカマ(注：タトネフチの子会社「ニジネカムスク・シナ」のブランド名)と交渉しているが、難航している。産業・新技術大臣と

して、もし、日本のタイヤをタジキスタンに供給してくれるなら、最上の条件を提示することを約束する。もちろん、もっと良いのはタジキスタン国内でタイヤを生産してくれることなのだが。

- ・ 国内に自動車産業を育成したい。予定されているキアの組み立て工場に加え、ウズベキスタンでは年間 30 万台の自動車が製造されているので、タイヤや部品の需要は大きいだろう。タジキスタンはアルミニウムを生産するので、ホイールの生産が可能だ。タジキスタンの製品はグリーン電力で生産されるので、欧州に輸出できる。
- ・ 現在、鉱山で使われている敷材はほとんど中国製なので、日本にぜひ進出してほしい。タジキスタンへの進出など今は笑い話かもしれないが、大きな可能性があることを理解してもらいたい。

◇投資フォーラムへの招待

(コディルゾダ議長)

- ・ 大統領令で、2022～2026 年が持続可能な発展の 5 年間と定められている。当委員会の目的の一つに民間投資の招致があるが、これは ROTOBO の活動目的に合致する。2023 年 5 月にタジキスタンで大規模な投資フォーラムを開催する予定なので、ぜひ準備段階から参加してほしい。民間セクターと合弁企業設立など、文書を結びたい。
- ・ タジキスタンには、税、関税などを含め、投資家のための 110 の保証がある。タジキスタンについて、日本企業に知ってもらいたい。
- ・ 帰国したら直ちに、投資フォーラムへの案内状と担当者の連絡先を ROTOBO に送る。
- ・ 「タジキスタン・ウズベキスタン投資基金」を設立し、そのファイナンスのもとで既に 5～6 件のプロジェクトが動いている。同じように「タジキスタン・日本投資基金」ができたらうれしい。
- ・ 高原副会長ご自身でタジキスタンに来ていただきたい。カビル大臣が述べたように、タジキスタンの産業の発展は発展している。

(高原副会長)

- ・ ご招待に感謝。タジキスタンについての知識を至急積み上げねばならないということを感じた。ROTOBO 会員企業の共通課題だと思う。

(カビル大臣)

- ・ タジキスタン経済に関する良いプレゼン資料があるので、追ってご提供する。

(文責：(一社)ロシアNIS貿易会)